

## maf pintoの商品を通して

## 人生をより豊かにしてもらいたい

maf pinto

住所：〒831-0016

福岡県大川市酒見201

古賀 藤俊さん

Instagram: @maf\_pinto

今月の夢追い人はmaf pintoの古賀 藤俊さんにお話を伺いました。

maf pintoは、元々はECサイトやイベントを中心に、革小物の販売をされて



ありましたが、昨年10月に大川市酒見に実店舗をオープンしました。

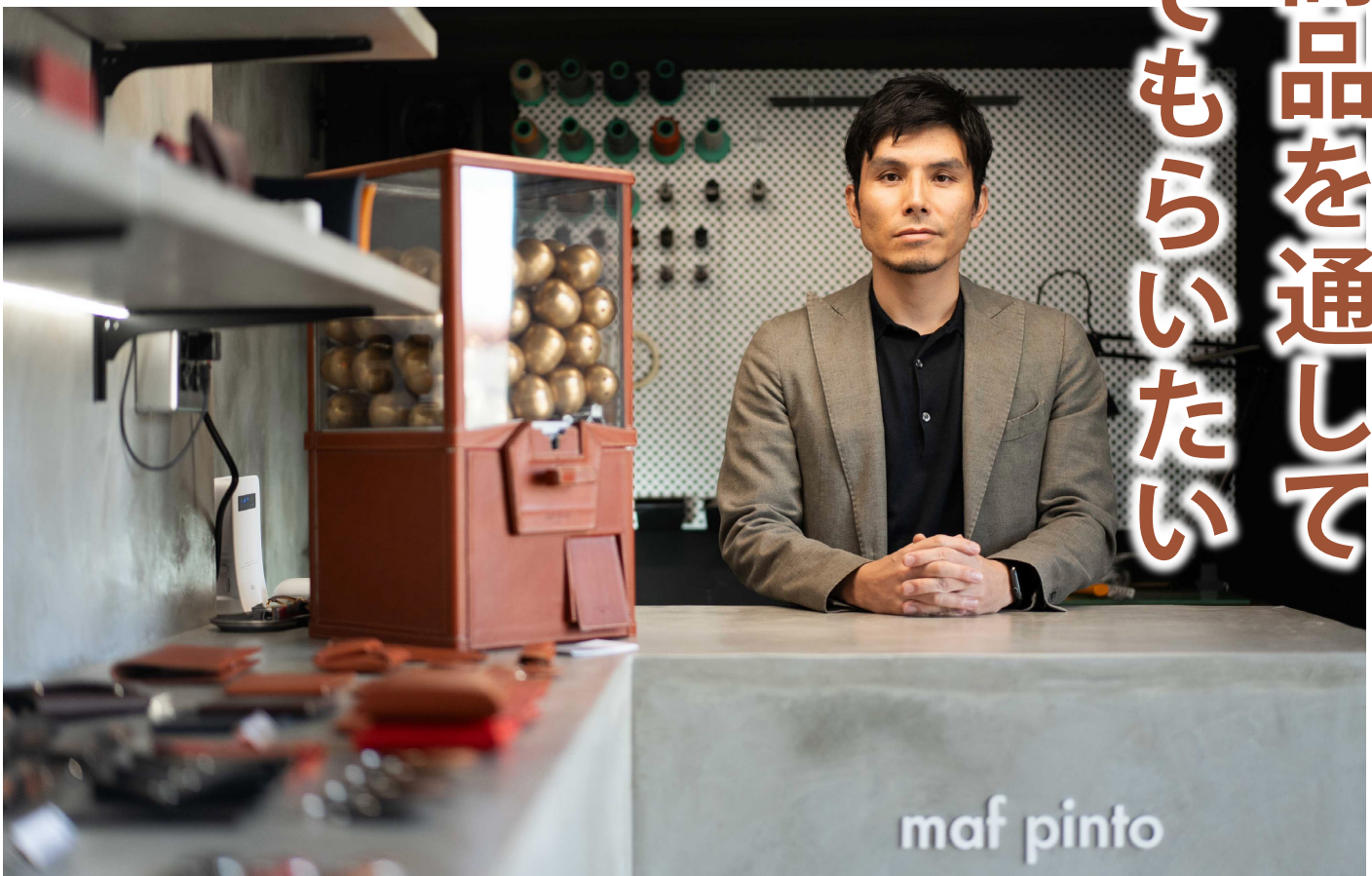
「事業内容は革小物の製造販売で、基本的にはほとんど1人で作っています。ブランド名の「maf pinto」は「pintoを合わせる」が由来で、モノに依存しすぎないという考えをベースにしています。高いモノを買うと大事にしながら、本来の使い方ができていない人も多く感じています。もっと自分らしく使っていて、自分という思いを込めています。

「自分のpintoを合わせる」という意味もあって、そんな雰囲気の名前を決めました。小さな店舗でもショールームのような感覚で、商品を少し見ただけで、メンテナンス

なども受けられる場所があればいいなと思って、実店舗をオープンしました。木工まわりのイベントで商品を見てくださった方が、店舗まで足を運んでくれたときは嬉しかったですね。ネットだと全国の方に見てもらえる一方で、店舗に来ていただけるお客様はやはり限られているので、なおさらありがたさを感じました。」

maf pintoではどのような種類の革を使用してあるのでしょうか。それぞれの特徴や魅力も教えてください。

「主に2種類の革を扱っています。まず1つ目は「バケツタレザー」です。10色展開で、使い込むほど味が出て色が深



maf pinto



まり、自然なツヤが生まれてくるのが特徴です。まさに、自分色に染まる、革ですね。2つ目は「イタリアシユリンクレザー」で、2020年から「ADRIALINE」（アドリアライン）として展開しています。こちらは傷や擦れに強く、水に濡れても安心な耐水性を持っていて、バケツタレザーとは逆に色落ちや経年変化が少ないのが特徴です。14色展開で、女性に人気のカラーもそろっています。味を楽しみたい方にはバケツタレザー、あまり変化させずきれいなまま使いたい方にはイタリアシユリンクレザーと、それぞれに合う素材をご提案できると思います。全部で24色展開なので、きつと欲しい色が見つかりますし、長く自分らしく使っていただけることを大切にしています。」

こだわりのある素材はどのように仕入れられているのでしょうか。

「日本でもレザーの展示会が開かれていて、そこへ足を運んで気に入ったレザーを扱う問屋さんと話をしながら、日本のタンナーさんを通してイタリアのレザーを仕入れています。皮が革になる、というように、タンナーさんの技

術によってレザーの良し悪しが大きく左右されます。色の出方や味わいなど、その魅力を決める大切な工程なんです。」

maf pintoでは、機能面やデザインで工夫されていることがあるそうです。

「maf pintoの商品は、あえて機能性を限定しています。なんでも入れられるような多機能なものは作っていません。というのも、機能が增えるほど、どうしても本来は必要ないものまで一緒に入れてしまいがちだからです。なので無駄をそぎ落とし、本当に必要な形だけを丁寧に残したデザインを心がけています。また、すべての型で24色展開を続けていることも、ほかのブランドには負けない強みだと思います。この多色展開自体が、maf pintoの大きな戦略のひとつでもあります。」

レザーブランドを立ち上げるきっかけは何だったのでしょうか。

「僕は生まれも育ちも大川市で、ブランドを立ち上げる前はレザーを扱うブランドで販売員として働いていました。革に触れたり、お客様に販売したりするうちに、自分でも作ってみたいと思うように

なっただけです。読書が好きなので、まずはブックカバーをレザーで作ってみたんですが、思った以上にいいものができ、出品してみようとネットに載せたのがスタートでした。修業に行ったわけではなく、すべて独学です。自由にやってきたことが、結果として今につながっているんだと思います。」

独学で自由に続けてこれれたからこそ、大切にしている軸があるそうです。

「僕が仕事をする上で大切にしているのは、自分らしく作る・デザインする、ということです。自分のブランドを通して、自分の感覚や考えをどう表現できるかを常に意識しています。その中で意識しているのが、便利さを追求しすぎない、ということ。便利という言葉自体は素晴らしいものですが、追求するとどんどん機能が増えてしまい、本来必要のないものまで入ってしまうことがあります。だから、あえて機能性を限定し、無駄をそぎ落とし、本当に必要な形だけを丁寧に残したデザインを心がけています。小銭入れなら小銭しか入らず、お札入れならお札やカードしか入らない。実用性だけを求

める方には他の商品をおすすめしますが、僕自身はこのシンプルさが良いと考えています。例えばシンプルなデザインにすることで、自然と身の回りを整理でき自分らしい使い方につながる。こうして感覚や自分らしさを表現することが、僕にとってのものづくりの大事な軸です。」

自分らしさを大切にしたい製作を行う古賀さん。そんな古賀さんの夢は何でしょうか。

「まず大川の店舗を皮切りに、2号店を開くことです。まだまだモデル数が少ないので、今後はラインナップを増やして、より多くの方に選んでいただけるようにしたいと思っています。その際にも、maf pintoの最大の魅力である24色展開はしっかりと守り続けたいです。僕が作る商品は、単にモノとして便利であるだけではなく、使う人それぞれの生活や時間を少しでも豊かにする存在であってほしいと考えています。maf pintoの商品は、持つ人によって素材の表情が変わり、自分色に変わっていきます。素晴らしい人生を送るための道具として、良きパートナーになっていきたいです。」